

# 平成 30 年度 泉苑 事業報告

## I 概要

### 1) 利用者動向

30年度は前々年度より稼働率の安定を目指すとともに入所の取り組みについてもさらなる強化を進めたが利用者の退所者数が昨年を上回り全体の稼働率アップの目標には達することが出来なかった。看護の人員も安定し他の部署との連携も強まった結果としてご利用者の過ごし方も新たな取り組みができるようにはなった。

### 2) 職員・育成

30年度は、正職員3名が退職となったが次年度より産休明けの3名が業務に戻れることや年度中に看護師2名が正職員となり介護職も1名正職員となった。ご利用者の過ごし方については、ご家族のご意見とも行かせる個別の取り組みが可能となり介護の対応にも福祉機器等の検討も進んできて職員の育成にも繋がった。

## II 平成 30 年度事業計画についての報告

### ①社会福祉法人として、利用者の満足度を追求する。

これまでの業務の見直しは、業務自体の見直しに主軸を置いてしまいがちになっていたが、利用者の過ごし方をあらためて考え、移乗リフトなどの福祉機器を活用できる空間づくりや、快眠・快食・快便の一つとして、利用者に応じた自然に排泄できるアプローチを行うことができた。また、例年しらとりと共同で行う季節行事も、家族の参加が定着しつつあり、ご利用者の生活に潤いをもってもらう取り組みも進めていくことができた。

### ②社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる。

介護保険制度改正の中で、あらためて利用者ニーズを探る取り組みとして、通所サービスでは利用者アンケート及び居宅支援事業所へのアンケートを実施。その結果を精査し、地域で何が求められているかを探りながら、配食サービスの強化、認知症対応型通所介護の見直し、入浴の受け入れ枠強化など組み立てることにつなげていくことができた。また、相談業務としては、その利用者だけでなく家族全体も含めた課題や、複数の問題を抱えている家族の相談など、独居・高齢者のみ世帯の相談だけでなく、多岐にわたる相談に対応した。

### ③社会福祉法人として核となる職員の定着・安心を実現する。

業務の見直し及び役割の見直しなどの検討を進め、常勤・非常勤ごとの業務の整理を行った。非常勤の業務整理を行うことで、業務と業務の間の時間を見つけて、利用者のゆとりや楽しみとなる時間を作ることができた。

特養稼働率は、年度当初より満床を目指して入所調整を進めてきたが、退所者が例年より多く在籍数を伸ばすことが難しい状況もあり、不安定な稼働となってしまった。

### ④社会福祉法人としての経営体制を確立する。

経営のための人材基盤安定として、OJTを通して業務の在り方を考えられる取り組みにつなげることができ、フロア間の連携、他部署とのネットワークを強化することができた。

## III 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	「持ち上げない介護」が定着。福祉機器の使用者は増加した。生活の潤いに関しては前年度に着手したホーム喫茶の定着等、職員意識も高まった。常勤・非常勤で業務の役割分担を行う事で業務の整理、効率化が進み、更に非常勤の働き方も多様化した。	介護員個人個人の能力向上。業務分析からの効率化は進んだ反面、超過勤務時間は短縮できていない。余暇活動の推進。目標未達の稼働率。

短期入所	新規、緊急の受け入れ態勢の強化。他部署との業務協力の取り組みを実施。	新規、定期増加による安定した稼働率への取り組み。
デイサービス	利用者、家族、ケアマネジャーにアンケートを実施し、提供時間の変更や入浴者数の枠拡大を実施し、ニーズに合わせた取り組みを実施した。	安定した稼働が確立するための取り組み。
地域包括支援センター	身寄り無し・独居高齢者の直接的・具体的援助が増加。通院支援や入院入所時の手続き支援を求められることが多く、行政等と協働で対応。	他職種連携の強化。地域のケアマネジャー不足に対する取り組み。
居宅介護支援センター	目標稼働率を4か月間維持する事が出来た。2名が主任ケアマネを取得した。	基本業務の徹底と目標稼働率の維持。
事務	毎期、経営会議の中で日ごとの確認を行い、少しずつ未収金に対する取組みが出来ていた。	財政状況の適切な報告・提供を検討する場を作る
管理	職員配置を踏まえ、必要な場所・時間・内容を分析し、新しい時間帯での非常勤雇用を行い、円滑な業務の遂行ができるよう取り組んだ。	人材確保と適正な人員体制の検討と見直し。サービスの質のさらなる向上

#### IV リスクマネジメント

##### 1) 苦情・第三者評価

30年度は、苦情も少なく、トラブルの発生はなかった。第三者評価については、新たな業者に受審したことで、より内容も深く確認することができて次年度に向けた課題が見つけた。

##### 2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

2月にインフルエンザの発症が利用者と職員もあったが施設内感染までには広がらず、個別の対応に収まった。

##### 3) 緊急対応

包括支援センターなどからの依頼や緊急でのショート利用は9件。職員が緊急時や困難ケースの受け入れ等を同じ理解のもと統一した対応が行え、その後の情報共有も徹底できた。

##### 4) 防災訓練状況

職員個々の理解には、まだ努力を要す。非常災害時を想定した訓練の実施及び周知徹底が必要。

##### 5) 勤務管理

各事業別に日々の人員体制をチェックし整える体制づくりを行いつつ、必要な配置を検討した。

#### V 事業別年間の実績概要

##### 1) 入所部門

(単位：名)

	定員	利用者（実施数）				入院者数		新規利用		利用終了		平均		待機者
		延べ人数	月平均	稼働日数	利用実績 (%)	実人数	月平均	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢 (歳)	
特養	110	35085	2923	365	87.4	24	2	26	2.2	26	2.2	3.7	87.1	118
短期入所	15	4556	379	365	83.2	—	—	40	3.3	—	—	2.9	89.2	—

##### 2) センター部門

(単位：名)

	利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均	
	延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢 (歳)
通所	6934	577.8	90	62.6	26	2.2	27	2.3	2.3	86.8
予防通所	482	40.2	11	6.6	5	0.4	4	0.3	0.6	88.9
認知症通所	625	52.1	9	4.4	5	0.4	3	0.25	2.6	85.9
通所合計	8041	670	110	73.6	36	3	33	2.8	2.2	86.5

## 3) 支援センター部門

(単位：名)

	利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均		
	延べ人数	月平均	年間 実人数	月平均 実人数	実 人数	月 平均	実 人数	月 平均	要介護度	年齢（歳）	
包括総合相談	8168	680.7	1501	125.1	156	13.0	—	—	—	—	
介護 予防	元気アップ	1527	42.4	149	12.4	41	3.41	41	3.41	—	—
	地域交流	2185	182.1	217	36.1	54	9	—	—	—	—
湧夕（配達）	6038	503.2	55	34.8	20	1.67	14	1.17	—	—	
湧夕（持帰り）	1264	105.3	20	10.4	7	0.58	7	0.58	—	—	
地域デイ	1642	43.2	50	54.1	9	0.75	7	0.58	—	82.9	
予防居宅	1314	109.5	171	109.5	79	6.6	49	4.1	1.734	82.1	
居宅介護支援	1137	94.7	110	94.7	25	2.1	16	1.3	1.98	83.7	
市 訪問食事	—	—	0	0	0	0			—	—	

## 4) 苦情・事故報告

	延べ件数	月平均件数	解決件数	未解決件数	対応中件数
利用者からの苦情	3	0.3	3	0	0
事業所からの苦情	1	0.1	1	0	0
職員からの苦情	0	0	0	0	0
その他苦情	0	0	0	0	0
施設内事故	20	1.7	20	0	0
施設外事故	0	0	0	0	0